

「早く来い来い」

坂口 裕靖

緊急事態宣言は2020年5月25日を持って解除されました。当初予定されていた5月6日からは延長されましたが、3週間に満たない期間の延長で解除されたこととなります。新規感染者の減少がこの自粛要請による要因が大きいのか、温度・湿度・紫外線などの環境要因が大きいのかについて、今後の数週間で徐々に明らかになっていくかと思います。

環境要因で減少したのであれば、自粛解除後でも新規感染者は特に増えないでしょう。一方で自粛の効果が支配的であったのなら、自粛解除後に急増するかもしれません。もっとも自粛期間解除後も社会の各所で飛散防止対策がなされているのであれば、結果として自粛が継続しているようなものですから、あまり明確にはわからないかもしれません。それでも緩やかに増加することは観測できるのではないのでしょうか。い

ずれにしろ自粛が支配的であったのなら、これからも自粛要請を繰り返すことで効果的に新規感染者を減らすことができるでしょう。

一方最悪なのは環境要因が支配的であることが判明した場合です。これが正しいのだとしたら自粛に意味はないこととなりますので、今後の秋冬シーズンでできることは感染者の早期検出と隔離ぐらいになるでしょう。それなりに大量の人数が発生した場合、隔離しきれぬかどうかが問題となりますし、隔離に対する何らかの補償がなく、隔離されることが失職に直結してしまう場合、結局隔離し切れないことになりかねません。

自粛によりあれだけ人出が少なくなったのですから、感染者に対する曝露量はそれなりに減ったと思われます。なので、自粛の効果がまったくないということはないで

しょうし、今後もある程度は有効であるかと思えます。ただし、今と同じように全てを停止する前提ではなく、感染者に対する曝露量を低減するための効果的な方法に絞っていかないと、自粛による経済への悪影響の方が遥かに大きくなってしまいそうです。

さて、感染対策としてソーシャルディスタンスの確保を目指すとする、既存設備を前提とするビジネスの大半はうまく回らなくなってしまうのではないのでしょうか。実際に現在銀行のATMコーナーではソーシャルディスタンスの確保をするために待ち行列を伸ばしており、給料日には店外に長い列ができています。年金世代が炎天下の中立ち尽くしている姿は熱中症が心配になります。

ぎゅうぎゅう詰めを前提として設計されていた居酒屋で、最近傍4席を空にした運

One Point BUZZ WORD

水産物加工品

結局 covid-19 対策として、他人に感染させないためのツールとしてマスクが有効である、というコンセンサスが得られたように思います。残念ながら感染しないための役には立たないようなので、思いやり成分ということになりますでしょうか。逆に言えば「自分以外の全員がマスクをする」ことが望ましいわけですから、マスクを強要するなんらかの圧力がない限り、どうしても漏れは生じるように思います。

そんなマスク、4月から5月にかけては大変な品不足で、ドラッグストアの前には早朝から沢山の人が無言で並んで、開店と同時に奪い合いを行う姿が目立ちました。昔ドラクエ、今マスクという感じだったわけですが、5月も末になるとだいぶ状況は改善され、少なくとも出自の怪しいマスクであるなら、そここ

容易に入手できるようになったかと思えます。前述の通りマスクの効果は「自分以外の全員」で発揮されるわけですから、出自が怪しかりうがなんだろうが、飛沫拡散防止の役には立つでしょう。ただ、これら出自の怪しいマスクがもともとは買い占めた連中の在庫だったとするのであれば問題となるでしょうが、残念ながら区別が付きません。それでも一箱3,000円ぐらいからという値付けはだんだん下がりがつつあるようです。そんなさなか、でかけた先で入ったスーパーにて、箱入りマスクが税抜3,000円で販売されているのを見つけました。当時箱入りは珍しかったので購入したところ、レシートのマスクに対応する品名は「水産物加工品」となっていました。しかも消費税8%。うん、たしかに鮮魚売り場の、魚肉ソーセージの隣にそっと3箱置いてあったから、多分水産物加工品に違いないんだと思います。箱を手にとってよく見ると、隅っこの方に「加工者」を示すラベルも貼ってありました。最近のマスクは海で取れて食べるんだねー(棒読)。

用をする（それで確保できる距離は1mぐらいでしょうか）となると、客単価が回転率を数倍にしないかぎり、なんか難しそうに見えます。それ以前にリモートワークの普及により、そもそも居酒屋へ行くという習慣自体がダメージを受けている可能性も否定できません。同僚全員がリモートワークなら、リモート飲み会が前提ではないでしょうか。逆に言えば、リモート飲み会対応の個人用ブースならもしかしたら需要があるかも。

換気にしても、「窒息しない程度」を前提として設計された空調設備は、エアロゾル拡散防止という観点からは不十分かもしれません。夏の間は窓を開けっ放しでなんとかなるとして、じゃあ冬はどうするのよ、という話もあります。事務仕事についてはリモートワークが現実的な解決策でしょう。商店街からすれば自粛されてるとあまり変わらないことになります。昼間人口を前提とした商売の大部分は打撃を受けるでしょう。

重要なのは感染を防止することであり、距離を取ることでありません。隔壁などにより、実質的にエアロゾル等の散布を防止することができるのであれば、無理して客席相互の距離を取る必要もないでしょう。一方「感染してもいい仲」もあるでしょうから、そうした数人組の来客用スペースというのも十分あります。どうせ家に帰ればソーシャルディスタンスを取りようがない家族同士であるなら、他の客から離れてさえいれば問題ないはずですから、わざわざバラして個人用ブースに押し込める必要もありません。持ち運べるような隔壁であれば、こうした複数人へも隔壁を組み替えることで対応できるかもしれませんが、隔壁ばかりだと今度は消防法にひっかかりそうです。少なくとも covid-19 を治療でき

るようになるまでの間は、こういった試行錯誤が必要となるでしょう。

今後も自粛要請が続きそうだと感じた場合、企業は対応しようとして様々な策を講じるに違いありません。その最右翼は固定費の圧縮であり、オフィスや人員の縮小につながるのではないのでしょうか。オフィスそのものが何をやる場所なのか、根本的な議論が問われるようになるかと思えます。コロナの影響で国際郵便システムが停止がちな現状において、物理メールの存在意義は激しく問われることになるでしょう。実際に今回のタイミングで請求書のやりとりを電子化した企業も多数あるかと思えます。今できるんだったら、今までだって十分できたんじゃない、やっつけよ、という話ではありますが、まあやらないよりは十分マシでしょう。ついでにエビデンスの電子化へ向かっていけば大量の書類庫を開放できそうですが、そちらの方はタイミングを逸していたかもしれません。

一方で、紙の処理に対してオンライン処理の方が手間がかかるという素敵な現象が露見したマイナンバー周りではありますが、当然ながらシステム内で完結するならオンラインの方が当然手間も時間もかからないはずなので、想定していない使い方を強要した、どこかの誰かの責任が大きいでしょう。これに懲りて、世帯単位ではなく個人単位へと様々な手続きが進んでいくと良いんじゃないかと思えます。世帯という人工物は自然な単位ではないため、デジタル的には大変扱いづらいものです。世帯のメンバーは当然入れ替わりますし、分裂したり合体したりして消えていく物も出てきます。一方で個人であれば、ある特定の個人について、生まれてから死ぬまでの間にメンバーが入れ替わることはありません。すなわち台帳上の人と、対応する人の関係は一定

不変です。名前や性別、容貌や指紋といったアトリビュートは変化するかもしれませんが、生まれたタイミングでIDを採番すれば、以降はそのIDをベースに間違いのない処理を行うことが可能となります。どうしても世帯を構成したいなら、世帯に属する個人IDでレコードを作成でき、メンバーの出入りがあっても問題なく管理できます。であれば、ある個人が複数の世帯に属することも簡単に実現できるはずですよ。世帯というのは、本来その程度の位置づけははずです。

逆にある人のアトリビュートからIDを拾い出そうとすると様々な問題が発生するかもしれません。名前だけだと同姓同名、住所だと同居人等々、区別つかない場合があります。これがまさに今現在問題になっています。同姓同名をどうやって区別するかは、基本的に住所によるわけです。本籍が必要な理由はここにあります。オリジンレコードの存在場所を示しているわけですね。

では、同姓同名、性別も同じ二人が同じ場所に同棲してたらどうやって区別しましょうか？この場合は生年月日で区別することになります。それでも広い日本、同姓同名かつ生年月日が同一の人間が何人が存在するかもしれません。その人々がルームシェアしたらどうなるかは見ものですね。逆にいえば住所という主要なアトリビュートがなければレコードの存在を確認できないわけですから、ホームレスに様々な支援が届かない原因の一部でもありましょう。

まあでもとにかく、早く来ないかな、マスクと10万円。

Hiroyasu Sakaguchi
株式会社 IMAGICA Lab.